

復刊

ハザミ



所沢図書館だより
復刊25号(通巻103号)
題字 高橋 玄洋 氏

目次	
P.1	大人が楽しむ 日本の昔話
P.2-3	戦国時代の 西武地域
P.4-5	所沢歴史物語
P.6	図書館活用法

大人が楽しむ日本の昔話

根岸 貴子

児童室の書架には、世界中の昔話の本が並んでいます。子どもやお孫さんに読んであげた方もいらっしゃるでしょう。

でも自分はやはり昔読んだ(聞いた?)日本の昔話に親しみを感ずるという方は少なくないようです。そこで、一般向きに出版された本の中から、大人が楽しめる「日本の昔話集」を三冊ご紹介します。まず日本にはどんな昔話があるのか、全体を知りたい方に勧めたいのが「日本昔話百選」(稲田浩二・稲田和子編著 三省堂 一九七一年 改訂新版二〇〇三年)。



民俗学者の夫妻が、北海道から九州まで、全国から集めた昔話の中から、代表的な百話を選んで載せました。「花咲爺」「舌切雀」など、いつかどこかで聞いた覚えのある話、初めて知る地方の珍しい話など、様々な話が楽しめます。

方言を生かした再話ですが、耳慣れない言葉には共通語の注が添えられているのでわかりやすく、図書館のお話会などでも度々使われる定番の昔話集です。

また、たくさんの話を継承している優れた語り手の話を、一冊にまとめた昔話集もあります。

「鈴木サツ全昔話集」(小澤俊夫他編 鈴木サツ全昔話集刊行会 一九九三年/福音館書店再刊 一九九九年)には、岩手県遠野に生まれ育ったサツさんの語る「おしらさま」等一八八話を収録。理容師として働いたサツさんが、自分の人生や話し上手だった父の思い出を語る「昔話と私」(聞き書き)、小澤俊夫氏の解説「語り手の心の記録」も、口承文芸への理解を深めてくれます。



「雪の夜に語りつく ある語りじさの昔話と人生」(笠原政雄語り

中村とも子編 福音館書店 一九八六年)は、語り手自身の「思い出話」と、「聞き耳ずきん」等七〇余話の「むかし話」の二部構成。新潟県長岡市に住んでいた笠原さんの話には、夜なべ仕事をしながら昔話を聞かせてくれた母への思いが込められています。



お話を楽しむだけでなく、昔話が暮らしの中に生きていた時代、語り継いできた人たちといった伝承の背景まで知ることのできる、大人のための昔話集。あなたも読書のリストに加えてみませんか。

根岸 貴子

一九四六年生まれ

調布市立図書館、(財)東京子ども図書館に勤務。

一九九四年所沢市に、竹中淑子氏と、子どもの本研究所を設立。

著書に「はじめての古事記」(共著 徳間書店)「こねこのレイコは一年生」(のら書店)「こたろうのさかなつり」(福音館書店)「こどものとも年少版」等がある。

所沢図書館郷土史講座

戦国時代の西武地域

令和元年九月二十九日（日）
会場 所沢図書館本館
講師 黒田 基樹氏

はじめに

戦国時代末期、西武地域（＝武蔵国の西部）は北条氏照が治める「八王子領」に区分されています。これは八王子市にあった八王子城の支配範囲で、かなりの広域にわたります。

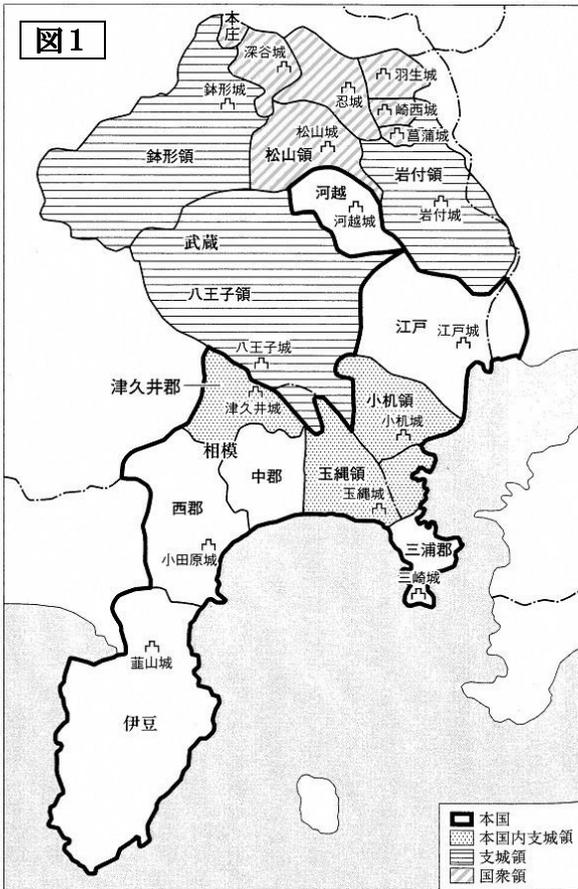
このように面的に支配範囲が広がり、かつ排他的な支配が展開しているものを、研究上「領国」と

表現します。こうした支配のあり方は戦国時代より前にはないものでした。

また、戦国時代に戦争が日常化すると、軍事要塞の城が政治拠点としての性格も持つようになりま。これまで戦争が終われば廃棄されていた城が永続的に存在するようになり、戦国時代には城を中心として領国が形成されるという状況が生まれました。

北条家の領国支配

この時代、関東の大半は小田原城を本拠にする北条家の領国でした。北条家は全国有数の戦国大名で、伊豆の領国化に始まり、相模、武蔵と領国を拡大していきます。



北条領国行政区分図

『戦国大名 政策・統治・戦争』黒田基樹
平凡社 2014年より

図1は、北条家の支配下にある伊豆・相模・武蔵国に、領域的な行政単位が設けられていたことを示す地図です。戦国大名の領国は基本的に似たような構造を持っていきますが、このような地図に表せられるのは、資料が多く残り、研究が進んでいる北条家だけです。私が北条家研究をメインに据えているのも、残存資料が豊富なことが理由の一つで、北条家の研究でわかったことが、ほかの戦国大名の研究にも応用されています。

「国衆」という存在

図1では、埼玉北部の地域（斜線部）が国衆領となっています。

「国衆」とは戦国大名に従属する独立国家の領主のことです。戦国大名の家臣に当たるのか、そうでないのか長らく議論されていた存在について、私は、独立的に領国支配をしつつ、戦国大名の政治的・軍事的統制下にある者と位置づけ、「国衆」と表現しました。

この考え方は後進の研究者にも受け入れられ、現在の研究はこうした独立的な存在を「国衆」と定義した上で進められています。

私は「真田丸」で時代考証の仕事をしていただいたとき、「国

衆」や「百姓の成り立ち」といった当時の研究テーマを作中に盛り込みました。その後から、真田など戦国時代の小規模独立国家のことを「国衆」と表現することが一般にも知られるようになったと思います。

北条氏照について

八王子領は、北条家が直接領国支配をする本国のすぐ外側に位置しており、一つの領国としてはかなり大規模なもので、領主としてその支配を任された北条氏照の政治的地位の高さが伺えます。

氏照は、伊勢宗瑞（北条早雲）から数えて四代目の当主である氏政のすぐ下の同母の弟であり、北条家の一門衆筆頭の立場にありました。

氏照の北条家における立場の重要性は、豊臣秀吉による小田原合戦（1590）後の処分からも見て取れます。

この当時の北条家は、ほぼ関東全体を領国とする巨大な組織でした。例えば、巨大企業の社長が断で組織を動かせないように、北条家も、執行部の合議により組織の行動が決定されます。

小田原合戦において、北条家は

秀吉方に対して徹底抗戦を行ったため、戦後、最高権力者の氏政、北条家一門の代表である氏照、さらに序列一位・二位の家老が切腹させられますが、これは開戦を決定する立場にあった重役を処分することで、北条家という組織の責任を取らせるという意味がありました。

八王子領国形成前の状況

この八王子領は、二つの領国が合わさって形成されています。

一つは南半分にあたる大石氏領国で、所沢は全体がここに含まれており、もう一つは北半分の三田氏領国です。大石氏や三田氏は国衆で、それぞれが独立国家として領国支配を行っていました。

領国の首都ともいえる本拠は、大石領が今の八王子市にあった由井城、三田領が青梅市にあった勝沼城でした。

租税の納入や紛争解決の裁判はすべて本拠で行われたため、四方八方から本拠への街道が作られていきます。所沢の場合、八王子へ直接道が繋がっているのは、もともと由井城を本拠とする大石領であつた名残です。

ちなみに、所沢にある滝の城は、

かつて清戸（清瀬市）にあつた番所を氏照が管轄していたことから、この清戸番所に当たるのではないかと私は考えています。

滝の城は、南は府中や座間、北は岩槻に繋がっており、北条家から小田原から東北方面へ軍勢を移動させる際に、通過地点として機能していたと思われます。

大石氏と三田氏

大石氏はもともと、鎌倉公方・足利氏を支える関東管領を務めた、山内上杉氏の家老の家でした。

関東全域を巻き込む戦乱となつた享徳の乱（1455〜83）以降、領主同士の日常的な抗争によ

り、所領併合が進んでいきます。

このような情勢下、大石氏も領国化を進め、国衆に成長していきます。北条家と山内上杉氏が抗争を展開する中、大石氏は最終的に北条家に服属し、北条家の配下に入った国衆として「他国衆」と呼ばれます。

しばらくして、大石家では跡継ぎがいままま当主が亡くなったため、北条家二代目当主の氏康は、三男の氏照を婿養子に出し、大石家の家督を相続させます。後に四代目当主となる氏政の同母の弟で、北条家の有力な跡継ぎ候補でもある氏照を養子に出したことから、

いかに大石の存在を重要視していたかがわかります。

なお、養子となつた氏照は初め大石を名乗りますが、のちに北条に改称します。

もう一方の三田氏については、長享の乱（1487〜1505）以降、勝沼城を中心に領国を形成したことがわかっていきます。

大石氏と同じ時期に北条家に服属しますが、長尾景虎（上杉謙信）との抗争の際、景虎側に寝返つたため、北条家の攻撃を受けて滅亡

します。

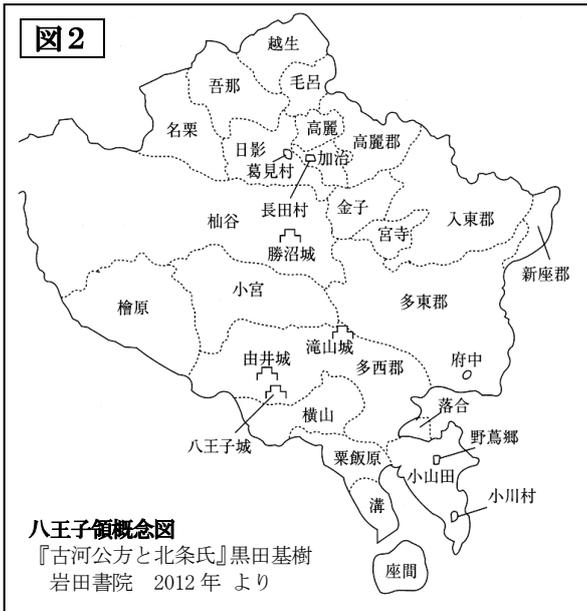
この時に先陣を務めたのが、大石領を支配していた氏照でした。氏照は褒美として三田領を与えられ、以後大石領と三田領を統合した領国を形成していきます。

関連文献

- 『武蔵大石氏 論集戦国大名と国衆1』岩田書院
- 『武蔵三田氏 論集戦国大名と国衆4』岩田書院
- 『戦国北条五代』星海社
- 『古河公方と北条氏』岩田書院
- 『北条氏康の妻 瑞溪院』平凡社
- 『北条氏康の家臣団』洋泉社
- ※編・著すべて黒田基樹

黒田 基樹氏 紹介

駿河台大学法学部教授。日本史学博士。著作に『百姓から見た戦国大名』（筑摩書房）、『戦国大名政策・統治・戦争』（平凡社）、『戦国大名の危機管理』（KADOKAWA）ほか多数。二〇一六年のNHK大河ドラマ『真田丸』で時代考証を務める。所沢市在住。



所沢歴史物語

所沢市の誕生

2020年、所沢市は市制施行70周年を迎えました。そこで今回は、「所沢市」誕生までの歴史をご紹介します。

街に集まる町場であることが確認され、同年10月、内務卿松方正義が請願を認可、「所沢町」が誕生するのです。

所沢村から所沢町へ

江戸時代前期の開村以来、所沢は小さな村落に過ぎませんでした。幕末頃から栄え始め、明治維新後には大きく発展を遂げます。

そんな折の明治14年（1881）5月、所沢村民は「所沢町」への名称変更を請願します。

県庁宛に提出された「村名改称願」では、所沢はそもそも交通の要路で、古来よりの六斎市（定期市場）では出店や来客で近隣から人が集まる都会であること、近年は繁昌を知った商家の移住で町場化が進み、近村の人々や東京からの手紙でも「所沢町」と自然に呼ばれていることなどを、その理由としていいます。

これを受けた調査により、所沢村は全戸数の45パーセントが市

町村制公布による合併

明治21年（1888）4月、政府は新しい町村制を公布します。

これは江戸時代以来の自然村落的な旧町村に代わり、近代国家制度の下に行政上の新町村を設置するものでした。

これにより、全国に約7万あった旧町村の多くが区または大字となり、約1万余りの新町村に吸収合併されていきます。

所沢でも、明治21年頃には新町村の編成方針がほぼ固まります。

しかし、特に荒幡村と山口村では、商業上の理由や民意を無視した新村案の決定、新しい村名への不満などから反対意見がでます。

結局、翌年の新町村発足時にはまず所沢町、小手指村、富岡村、柳瀬村、松井村、三ヶ島村が成立

します。その後遅れて、協議が難航した吾妻村（旧荒幡、久米、北秋津村）、山口村（旧山口、上山口、勝楽寺村）が成立し、県の原案通りの合併が完成するのは明治35年（1902）となりました。

戦時下の大型合併

昭和初期になると、所沢町に久々の合併案が出てきます。

しかし、農業人口が減少し都市的な発展を目指す所沢町と、合併すれば都市域内の農村となる立場の3村（吾妻村、小手指村、松井村）との考えが一致せず、合併案は立ち消えとなります。

ところが約10年後、太平洋戦争中の昭和18年（1943）4月に、所沢町、松井村、山口村、吾妻村、小手指村、富岡村の1町5村が突然合併することになり、合併後の所沢町は元の3倍、人口約3万3千人の町となります。

その背景には、戦時体制強化を目的とした同年1月の地方制度改正があり、これによって地方議会の権限は縮小され、町村は事実上の国の出先機関とされました。

このような戦時下の国の動きを受けての大型合併は、所沢の発展

のためというより、増大する戦時行政事務を国が町村に担わせるためのものであったと言えます。

そして所沢市へ

太平洋戦争の敗戦後まもない頃から、所沢では市制施行を望む声がありました。

しかし昭和18年の合併で成立した所沢町は、市街地と農村地域の差異が大きく、元の所沢町が再び分離するという主張すら飛び出すなかで、市制施行の議論は立ち消えとなっていました。

しかしその後、昭和24年（1949）頃になると所沢での市制施行が具体化してきます。

これは主に埼玉県の指導によるもので、所沢には旧陸軍施設にできた進駐軍工場に近隣から勤務者が集まる状況であること、武蔵野線（現西武池袋線）や西武線（現西武新宿線）を通じて東京の郊外都市として発展する可能性があること、また山口貯水池が観光地として期待されていたことなどが要因としてありました。

さらに秩父町の市制施行計画が報道されたことで、所沢町でも市制施行への機運が高まります。

所沢町当局・町議会は、県内の市制実施都市の視察や市制施行対策委員会の設置、各地区別の懇談会を開くなどし、ついに昭和25年（1950）8月27日、所沢町議会で市制施行が議決されます。

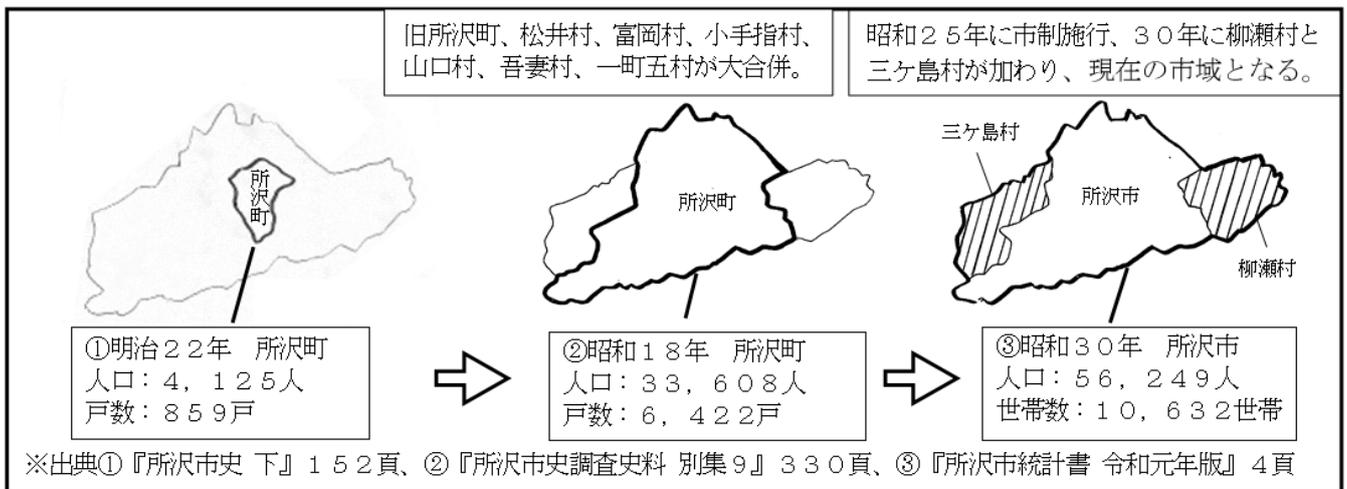
この議決を受けて所沢町は埼玉県に市制施行を申請し、所沢町の現状は人口42,561人、総戸数8,339戸のうち中心市街地が5,650戸（全体の67%）を占め、商工業など都市的業態に従事する戸数も多数に上るなど、すでに市制施行の基本的条件を満たしている」と主張しました。

そして同年11月3日、所沢は「所沢市」として県内8番目の市となり、市内では記念のお祭りが開かれます。

このとき発表された市政宣言では、「大所沢市」実現のため農商工業の振興と住宅・観光都市としての諸施策を並行して行い、また市民の日常的な文化水準向上のため、文化的施策を重視するなどとしています。

三ヶ島村と柳瀬村の合併

こうして昭和25年に誕生した所沢市は、まだ現在とは異なる形



をしていました。

昭和28年（1953）9月、市町村規模の適正化を目指す町村合併促進法が公布され、所沢市には柳瀬村、三ヶ島村との合併案が浮上します。

このうち柳瀬村との合併は、もともと所沢と密接な関係にあったことからスムーズに決まります。

一方、三ヶ島村は関係の深かった豊岡町（現在の入間市の一部）と合併したいとの意見もあり、所沢市との合併協議は難航しました。一時中断の後再開された協議は、最終的に三ヶ島村、所沢市の双方の妥協により合意にいたります。

こうして昭和30年4月1日、柳瀬村、三ヶ島村を編入することで、現在の所沢市の形ができあがるのです。

所沢市誕生と図書館資料

さて、ここまで所沢市が誕生するまでの歴史を紹介してきました。少しでも興味を持っていただいた方は、ぜひ所沢図書館の関連資料もご覧になってみてください。

例えば、この記事は主に『所沢市史 下巻』を参考にしています。『所沢市史』にはこの他にも

様々なエピソードが掲載されています。

さらに『所沢市史 史料編』では、町村合併時の協議の経緯や、市制施行を申請する際の文書など、当時の実際の史料を読むことができます。

また、『所沢市史』のダイジェスト版『ところざわ歴史物語』は全面カラーページで、古代から現代を通じ一冊で所沢の歴史を見ることができ、『ふるさと所沢』は昭和初期の所沢町役場や市制施行記念祭での山車や祝賀行列の様子など、様々な写真を見ることができます。

市制施行70周年のこの機会に、所沢図書館で所沢の歴史について触れてみてはいかがでしょうか。

【参考文献】

- 『所沢市史 下』
- 『所沢市史 現代史料』
- 『所沢市史 近代史料Ⅰ』
- 『所沢市史 近代史料Ⅱ』
- 『所沢市史 近代史料Ⅲ』
- 『所沢市史調査資料 別集9』
- 『所沢市史編さん室』編 所沢市『所沢市史編さん室』編 所沢市『ところざわ歴史物語』所沢市教育委員会編 所沢市教育委員会 所沢市
- 『ふるさと所沢 所沢市制施行60周年記念写真集』郷土出版社
- 『所沢市統計書 令和元年版』
- 所沢市総務部文書行政課／編 所沢市

図書館活用法



これまで所沢図書館で解決した、レファレンス(皆さんの疑問に対して必要な資料を探すサービス)の一例をご紹介します。今回は特別に、回答した資料を元に読み物としてお楽しみいただけるようにしてみました。

Q ホワイトタイガーはアルビノではなく白変種らしいが、アルビノと白変種の違いが知りたい!

A 日本のアルビノ(真っ白に生まれる個体)で有名なのは白蛇ではないでしょうか。真っ白な体に真っ赤な目は神の使いとされ、動物園の蛇コーナーでも白蛇は縁起の良い蛇として見かけることが多いと思います。

そんな白蛇(アルビノ)とホワイトタイガー(白変種)の違いは何でしょうか?その答えは、目の色に現れています。白蛇の赤い目に対して、ホワイトタイガーの目は黒色や青色です。これはアルビノの瞳孔が色素形成欠如のため

め血の色が透けて赤く見えるのに対し、白変種はメラニン色素の産生能力があるので瞳孔は黒色や青色をしています。

そう、アルビノと白変種の違いは、色素を作る能力の有無にあるのです。

例えば、身近な白変種である白猫は、体毛を白くする遺伝子を持つて生まれるため、白猫同士(白い体毛になる遺伝子しか持たない白猫)の間には白猫が生まれます。

ホワイトタイガーも同じで、ホワイトタイガー同士の子どもは白い体毛を持ちます。

それに対してアルビノは、体色が白いのではなく、色素の欠如によって白く見えます。

またアルビノとは、先天的にメラニン色素が欠乏する体質やその状態を伴う個体を指します。そのため、多くの生物から生まれることがあり、メラニン不足により、紫外線に弱く、視力的にも眩しく感じやすかったり、曇りでも目が見えにくかったりする特徴があり

ます。
白変種とアルビノ。同じ白く見える生き物でも、その理由には違いがあるのです。

【この質問は国立国会図書館レファレンス協同データベースに登録されています。】
(管理番号: 所沢新所120191010)
<https://crd.ndl.go.jp/reference/>

所沢図書館では電話やWeb(利用券とパスワード発行が必要)でもレファレンスを受け付けております。ぜひ、活用してみてください。

【参考文献】

- 『ヘンダーソン生物学用語辞典』 Eleanor Lawrence / 編 オーム社
- 『アルビノの話をしよう』 石井更幸 / 編著 解放出版社
- 『新猫種大図鑑』 ブルース・フオーグル / 著 ペットライフ社
- 『日本大百科全書12』 小学館



編集発行: 所沢市立所沢図書館 〒359-0042 所沢市並木 1-13

ホームページアドレス パソコン <https://www.tokorozawa-library.jp>

スマートフォン <https://www.tokorozawa-library.jp/opw/OPS/OPSINDEX.CSP>

電話 / FAX

本館 04-2995-6311 / 04-2992-1421
所沢分館 04-2923-1243 / 04-2928-8195
椿峰分館 04-2924-8041 / 04-2928-8148
狭山ヶ丘分館 04-2949-1193 / 04-2949-8577
松井小学校図書館 04-2992-2796 / 04-2992-2797

富岡分館 04-2943-3636 / 04-2943-6680
吾妻分館 04-2924-0249 / 04-2928-8250
柳瀬分館 04-2944-4023 / 04-2945-7236
新所沢分館 04-2929-1905 / 04-2929-1906

2020年11月19日発行 復刊いずみ25号 (通巻103号)